

(6) キノコの発生の観察

菌糸が生長して培養基全体が白色になったら培養ビンのラップを取り、中央部の菌糸を少し掻き取り、室温（15℃以下）で直射日光の当たらない、やや明るい場所に静置し、時々霧をかけて湿度を保つようにすると、5日ほどで菌糸を掻き取った場所に小さなキノコの発生の様子を観察することができる。（図7）

キノコ（子実体）は気温にもよるが、1週間ほどで生長する。（図8，9）

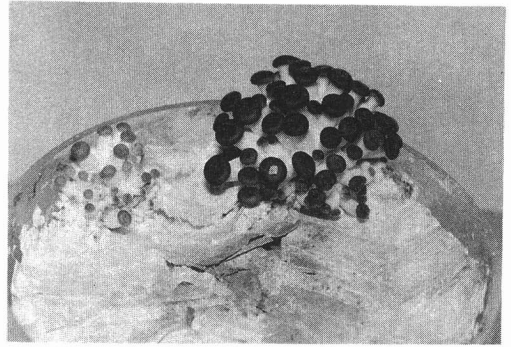


図7 キノコの発生

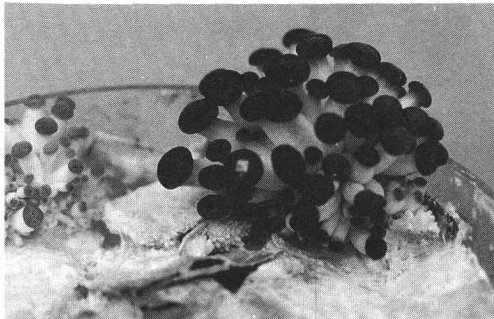


図8 生長途中のヒラタケ



図9 生長したヒラタケ

(7) ヒラタケとその胞子の観察

生長したヒラタケを培地からぬきとり、次のような手順で観察させる。

① ヒラタケ株の様子の観察

培地の量にもよるが10～30本が1株となって発生するのでそのようすを観察する。

② キノコ（子実体）の観察

株より1本のキノコをとり、かさの形・ひだの様子・ひたと茎の関係などについてくわしく観察し、スケッチをする。また、縦に裂いて内部の様子も観察する。

③ 菌糸の観察

培地の菌糸をスライドグラスに載せ、水を1滴落とし、カバーグラスをかけ、顕微鏡で観察する。（図10）

キノコ（子実体）の一部を取り、スライドグラスに載せ、水を1滴落とし、柄付き針で裂いてカバーグラスをかけ、少し押しつぶして顕微鏡で観察する。（図11）

どちらも菌糸であることを確認する。

④ 胞子紋の採取と胞子の観察

生長したキノコのかさの部分を取り、黒色の紙の上にひだの部分を下にして、1日ほどおくと、ひだの形に白い胞子が落ちて、放射状になっている様子を観察することができる。（図12）